

## 第9回滋賀県自治創造会議〈概要〉

1. 日 時 平成23年8月9日(火) 14時～17時
2. 場 所 日野公民館 多目的ホール
3. 出席者 知事、市町長(欠席…彦根市、豊郷町、甲良町、多賀町)  
県教育委員会教育長※関係テーマのみ
4. 概 要

### (1)「原子力安全対策を含む災害対策について」

#### 【提案者発言概要】

- 県では、地域防災計画の原子力編の見直しを進めているところ。見直しのポイントは避難計画の策定、モニタリング計画の策定、リスクコミュニケーションの三つ。
- 原子力施設の安全対策については、市、町、県が力を合わせて、琵琶湖を抱える本県全体として、国や事業者に対して、まとめて意思表示することが大切だと考えている。
- 防災対策については、警察の協力も大変重要。県警では、警察インフラを活かして、いざ、災害が発生したときには、情報を収集・集約した上で、県、市、町、消防等の関係機関に提供する体制を整えている。平素から警察等と情報を共有し、いざという時に備えていただきたい。

#### 【市町長発言概要】

- 地域防災計画の見直しは、大変重要なことなので、スピーディにやっていただきたい。
- 放射能については、風向きの影響が相当大きいので、同心円の線引きは意味がないのではないか。
- 本市では、防災計画の改定を進めているが、市の情報量は限られているので、是非、県から積極的に情報提供をしていただきたい。

#### 【知事発言概要】

- 確かに放射性物質は同心円では動かない。県琵琶湖環境科学研究センターがSPEEDI類似の大気汚染モデルを持っているので、それでシミュレーションをして、秋頃にはデータを出させていただき、具体的な計画に反映してもらえるようにしたい。

#### 【市町長発言概要】

- 事故後5ヶ月の今になって、申し入れをするのは、時期が遅いのではないか。また、県と市町が一緒になって申し入れする必要があるのか。
- 原発の再稼働について、県として申し入れができるようにしていただきたい。

#### 【知事発言概要】

- 時間がかかりすぎているとの意見だが、市町と丁寧に手順を踏んで進めてきたこと、県庁内に原子力対策のチームをつくるなど体制整備を行ったことから、時間がかかってしまった。

- 市、町、県が一緒になって要望することによって、琵琶湖を抱える滋賀県として、まとまって力を発揮できるのではないかという考えで提案している。
- 原発の再稼働についての申し入れだが、要望書に「原子力施設立地自治体が締結している原子力安全協定と同様に安全協定を締結すること」と盛り込んでいる。これは、再稼働なり、新設の時に意見が言えるということを意味している。

【市町長発言概要】

- 福井県には、原子力工学の専門職員がおり、国や各電力会社に対して対等以上に議論ができるような体制ができている。
- 原発の隣接自治体についても、財源の裏付けをするよう国や事業者に強く申し入れしていただきたい。

【知事発言概要】

- 専門家について、近いうちに、滋賀県として必要な専門家を整理したい。
- 財源だが、汚染者負担が原則と考えており、滋賀が様々な原子力対策をとるとしたら、国、事業者からの財源を求めなくてはならない。

(2) 「滋賀県立高等学校再編計画について」

【提案者発言概要】

- 7月11日に県教育委員会が「滋賀県立高等学校再編計画（原案）」を唐突に、一方的に発表した。プロセスにおいて十分な説明や意見徴収が行われた結果とは到底認められず、計画の中身については承服できない。
- 基本計画については、一定の理解をしているが、今回のように具体的な高校名を出すときは、必ず、事前に、首長や市町の教育長と協議をしていただきたい。地域の意見を聞いていただきたい。

【教育長発言概要】

- 再編計画は、生徒数の減少という流れの中で、いかなる高校教育を提供するのかという視点で考えた。高校では、一般社会に出て、やっていけるだけの力、集団の中で培われる社会性を身につけることが非常に大事で、そのためには、ある程度の規模が必要と考えている。

【知事発言概要】

- 設置者としての基本的な考え方は、教育は県の未来を担う柱ということ。教育委員会には、未来に対して二つのことをお願いしている、一つはキャリア形成教育、もう一つは滋賀の自然・文化を担っていく子ども達の育成。

【市町長発言概要】

- 今回は学校設置の問題だが、知事は、この原案が表に出る前に、確認をして、了承しているのか。

【知事発言概要】

- 教育委員会からの意見、課題などについては、その都度、報告を受け、今回の原案についても了解をしている。統合についても、納得をして教育委員会と足並みをそろえている。

【市町長発言概要】

- 定員は減らさないと聞いている。県として責任をもって進めていただきたい。
- 何故、定時制を能登川高校に移すのか。

【教育長発言概要】

- 高校の入学定員については、地域の中で確保する。
- 能登川に新しいタイプの学校を設置することは、配置バランス、交通の利便性も考慮して決めた。

（3）「地域特性に配慮した『滋賀県版一括交付金制度』の構築と進捗状況について」

【提案者発言概要】

- 現在の自治振興交付金制度は、メニューが限定されていることから、市町の裁量幅が狭い。地域に特化した課題に対して柔軟に対応するためには、市町に一定の裁量権を与えた一括交付金制度が必要と考える。
- 一括交付金制度の設計にあたっては、市町の実情を踏まえた意見を尊重し、十分反映したものでなければならないと考える。

【知事発言概要】

- 自治振興交付金については、現場の市町の自由度、裁量を高めた制度として、平成 21 年度から予算総額を確保しながら実施しているところ。今後、実績を見ながら、市町が使いやすいように、互いに成果がでるように柔軟に考えていきたい。

【市町長発言概要】

- 地方交付税並みに使途が自由にならないのか。
- 使途自由となれば、ありがたい話だが、それで、県の思い（政策誘導）が伝わるのか疑問。

【知事発言概要】

- 使途自由にすべしという意見と政策誘導という県の意志が必要ではないかかという両方の意見が出た。ここはバランスだと思う。

以 上